

「指導の手立て」の共通理解 ～作成した教材の情報交換を通して～

和歌山ろう学校 小学部

1 研究経過

- ① 平成20年度
 - ・既存の「個別の指導計画」の見直し
 - ・「個別の指導計画」の書き方、必要な記入内容の検討
 - ・サンプルの作成と検討
 - ・小学部自立活動について
 - ・わかりやすい指導案の作成と研究授業の実施
 - ・「個別の指導計画」様式統一について
- ② 平成21年度
 - ・新しい「個別の指導計画」の記入・作成
 - ・記入内容のチェック
 - ・学習教材の情報交換（下記参照）
 - ・研究授業の実施

2 今回の報告における研究方法

- ① 各教師が「授業で大切にしていること」「作成した教材」を報告しあう（1学期）。
- ② 上記の研究を基に「個別の指導計画」と照らし合わせ「実態」「指導目標」「指導の手立て」が有効に関連づけられた教材となっているか、再度確認しながら報告しあう（2, 3学期）。
- ③ 共通理解を図りながら「個別の指導計画」の修正・加筆につなげる。

事例報告 ①

児童名	A	教科名	国語
<p data-bbox="208 462 819 571">「当教科の目標」</p> <ul data-bbox="231 625 1634 1296" style="list-style-type: none"><li data-bbox="231 625 1634 853">・ 日常生活に必要なことばを理解し表現する能力と態度が身に付く。<li data-bbox="231 911 1634 1139">・ カタカナや漢字にも興味を持ち、生活言語が拡充する。<li data-bbox="231 1196 1634 1296">・ 本に親しむ。			

「指導の手立て」

- 身の回りのことばを題材にする。
- 興味を持って取り組めるように、大きく印刷し、目につくところに掲示しておく。

(教材例)カレンダーA1版
各月完成させ教室壁面に貼る



左記カレンダー
1日の記入例



言葉の獲得に向けた学習用プリント(行事用)



○
○
○
○
○
○

○
○
○
○
○

○
○
○
○
○
○
○
○
○

○
○
○
○
○
○
○
○
○

○
○

○
○
○
○
○

○
○
○
○
○
○
○
○

えの
なまえ
を
かきましょう。

なまえ

学習効果や課題

- 授業中はもちろん、ちょっとした時間でも見ているのか、効果は高い。
- カレンダーを見ながら
「まえ、〇〇〇したなあ」
「今度、〇〇〇するの、いつ？」
など児童の方から話してくれる。
- 別の内容の学習時でも、気が散ってしまうことがある。

事例報告②

「言葉から文へつなぐための 段階的学習プリントの作成」

- 第1段階 言葉を線でむすんで文を作る
- 第2段階 色分けした語群の中から言葉を選び文を作る
- 第3段階 ヒントなしで文を作る

「第1段階」(自主教材)



学校に

わたしは



ふぐに

わたしは



きゅうしよくを

わたしは



うわぐつに

わたしは



ボールで

わたしは



べんきようを

わたしは

☆上のふんと下のぶんをせんでつなぎましょう。

はきかえろ。

あそぶ。

いく。

する。

たべる。

きがえる。

「第2段階」(自主教材)

きがえる、たべる、あそぶ、する、いく、はきかえる
 学校、ぶんきょう、ふく、きゅうしよく、ボール、うわぐつ
 を、で、に

うわぐつ
 くに
 つ
 には
 ば
 きが
 える
 〇

き
 ょう
 う
 し
 よ
 く
 た
 べ
 る
 〇

学
 校
 に
 い
 く
 〇

ボ
 ー
 ル
 で
 あ
 そ
 ぶ
 〇

ぶん
 き
 ょう
 を
 す
 る
 〇

ふ
 く
 に
 き
 が
 える
 〇

14
 名まえ
 ☆うしろの しかくから、ことばを えらんで ぶんを つくりましょう。

「第3段階」(自主教材)

☆ぶんをつくりましょう。

お	う	き	学	ボ	ベ	ふ
ふ	わ	ゃ	校	ー	人	く
ろ	ぐ	う	に	ル	き	ば
に	ー	し	い	で	ょ	を
は	ち	よ	く	あ	う	が
い	は	く		そ	を	え
る	き	を	。	ぶ	す	る
。	か	た			る	。
	え	べ				
	る	る				
	る	る				
		。				




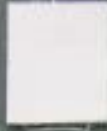
事例報告③


児童名	B	教科名	国語
<p>「当教科の目標」</p> <ul style="list-style-type: none">• 言葉や漢字を覚え楽しく学習に取り組み、会話や文章の中でそれらの言葉を使えるようになる• 文章から情景を想像したり段落の内容を考えたりできるようになる態度が身に付く			

「指導の手立て」

- 言葉の意味を調べさせ、手話をつけて発表させる
- 文中の言葉を別の言葉に置き換えて、読み聞かせたり、読ませたりする
- その言葉を使って短文づくりをさせる
- 本文中のキーワードとなる言葉を隠しておき、発表させることで、積極的に授業に参加し言葉を覚えたという達成感を味わわせる
- また、覚えた言葉は、文章の内容や物事の順序を理解するためのヒントにさせる

板書例①(キーワードを隠す)

⑧ さつえいが始まりました。テレビ
では、 だけでなく、 も大きな
役わりをもつので、目で見て分かる
ようにエ夫を  ます。
温泉街などで住民に
インタビューするときは、
 のどこかに富士山が
うつるように カメラを
向けました。住民が富士山のすぐそば
くらしていることを 知ってもらうため



板書例②(拡大印刷)

キーワードを文字数どおり隠す

ました。ゆみ子のにぎっている、一つの花をみつめながら――。

それから、十年の年月がすぎました。

ゆみ子は、お父さんの顔を覚えていません。自分にお父さんがあったことも、

知らないのかもしれない。

でも、今、ゆみ子のとんとんぶきの小さな家は、コスモスの花でいっぱいに包まれていきます。

そこから、ミシンの音が、速くなったりおそくなったり、何かのお話をしているかの、聞こえてきます。

それは、あのお母さんでしょうか。

「母さん、お肉とお魚とどっちがいいの。」と、ゆみ子の高い声が、コスモスの中から聞こえてきました。

すると、ミシンの音がしばらく

、ミシンの音がまたいそがしく始まったとき、買い物かごをゆみ子が、

をしながら、コスモスのトンネルを出てきました。そして、町の方へ行きました。

今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。

「学習効果や課題」

- 文章内の隠された言葉を発表する学習は、本児の興味をそり楽しく授業に参加できることから、言葉の習得を促すと思われ。意味を深く理解し自分の言葉として使いくこなせるように、使用する機会を多く設定する必要がある。重ねること、ゆっくしかし、学習を積み重ねること、ゆっくは進んでいく。

事例報告④ 電子黒板の利用



【考えられる効果】

- 黒板スペース(従来)の有効活用
- ポイントを押さえた効果的な情報提示
- 記憶媒体からのタイムリーな学習の振り返り
- インターネット検索機能との併用による豊富な情報活用
(例) 理科教科書の1ページより

「指導の手立て」(B児) 理科

- ・ 聴覚を充分活用させると同時に、視覚的手がかり(手話・指文字・写真・言葉を表記したもの等)を付けて説明することで、内容を正確に理解させる。
- ・ 使用する実験器具等の名称を覚えさせる際には、具体物を提示し、写真や言葉を表記したものも示しながら説明し、書かせることによって定着させる。
- ・ 実験の目的や方法について、自分なりに考えさせ、自分の意見を持たせた上で友達と話し合うことで考えを深めたり、確かなものにしたりする。
- ・ 実験の手順をひとつずつ示すことで、正確に理解させる。
- ・ 自分なりに説明させることで、十分に理解できたかどうか確認する。
- ・ 理解の定着を図るため、必要であれば同じ内容を繰り返し学習させる。

教科書の1頁より

情報が多く含まれる教科書から
必要な箇所を順番に提示し
ポイントを押さえる



実験 2

食塩やミョウバンがとける量

食塩

①水50mlに、食塩をさじて、すりきりいっぱいずつ入れてはよくまぜる。とけ残りが出たら、それまでに何ばいとけたか記録する。

②水を2倍の100mlにふやして、合計で何ばいとけるか調べる。

ミョウバン

●ミョウバンがとける量を、食塩と同じようにして調べる。

食塩やミョウバンを、1gずつ入れて調べてもよい。

とけた食塩の量	
水50mlに、さじ()はい	
水100mlに、さじ()はい	

とけたミョウバンの量	
水50mlに、さじ()はい	
水100mlに、さじ()はい	



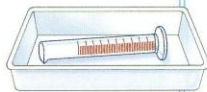
メスシリンダーの使い方

液体のかさを正かくにはかるには、メスシリンダーを使う。

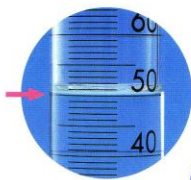
①メスシリンダーを水平なところに置き、液をやや少なめに入れる。

②真横から見ながら、はかり取るかさの目もりまで、スポイトで液を入れていく。

使わないとき



たおれやすいので、取りあつかいに気をつける。

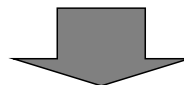


目もりは、液面のへこんだ下の面を、真横から見て読む。

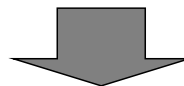


実験 2

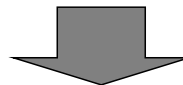
食塩やミョウバンがとける量



食塩



①水50mlに、食塩をさじて、すりきりいっぱいずつ入れてはよくまぜる。とけ残りが出たら、それまでに何ばいとけたか記録する。



②水を2倍の100mlにふやして、合計で何ばいとけるか調べる。

整理した情報をもとに、電子黒板等へ提示



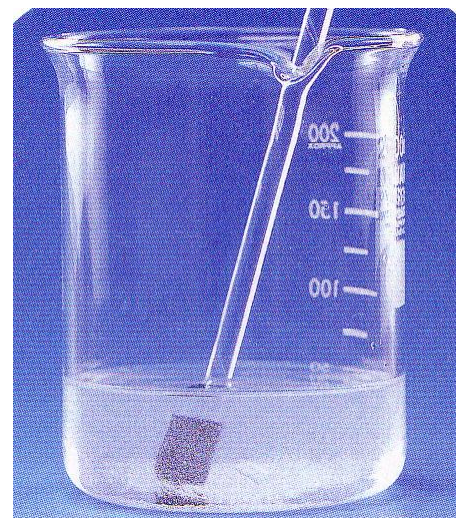
実験 2

食塩やミョウバンがとける量

食 塩

①水50mlに、食塩をさじで、すりきり1ぱいずつ入れてはよくまぜる。とけ残りが出たら、それまでに何ぱいとけたか記録する。

②水を2倍の100mlにふやして、合計で何ぱいとけるか調べる。



とけた食塩の量

水50mlに、さじ () はい

水100mlに、さじ () はい

「学習効果や課題」

- 学習する部分をピックアップし、注目させることができる。
- 視覚を充分活用することができる。
- 容易に繰り返し学習することができる利点を生かしつつ、画面の変化により、情報が消えてしまうという欠点を補う必要がある。

「研究の成果」

- 具体的な教材による情報を得ることで、指導内容や手立てがわかりやすかった。
- 児童の指導段階を探る上で有効であった。
- 各学年からの情報を交換することで、同じような教材を使えなくても、応用して授業に反映させることができた。
- 「個別の指導計画」の活用の点で、今回のような方法も一方法として提案したい。

「今後の課題」

- 一人一人の実態や課題をより丁寧に共有できる時間の保障と工夫
- 今年度新しく作成した「個別の指導計画」の次年度の有効活用